

シグマ委員会  
62年度第1回運営委員会議事録（案）

日 時 昭和62年 4月27日（月） 13:30～17:30  
場 所 日本原子力研究所本部 第5会議室  
出席者 梶山（東北大）、若林（動燃）、中沢（東大工）、村田（NAIG）  
鹿園、五十嵐、長谷川、水本（原研）  
オブザーバー：瑞慶覧（日立）、浅見、中川（原研）

配布資料

1. 61年度第8回運営委員会議事録（案）
2. 61年度旅費使用実績
3. シグマ研究委員会の構成（1987.4.25現在）
4. JENDL-3Tの編集状況（1987.4.25現在）
5. Tentative NEANDC Agenda
6. 「AGM for Nuclear Theory on Fast Neutron Data Evaluation」に関する王大海氏（IAEA）からのTelex
7. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会設置要領および幹事会議事録
8. WRENDAS7に関するNEA Data Bankからの手紙
9. 「International Symposium on Physics and Chemistry of Nuclear Fission」に関するSeeliger氏からの手紙
10. 「第7回 International Conference on Radiation Shielding」の第1次案内
11. 「第17回 International Symposium on Nuclear Physics」の第1次案内
12. 炉定数専門部会62年度計画
13. 2年報編集委員会議事録
14.  $^{24}\text{Na}$ の半減期（「Table of Radioactive Isotopes」から）

議 事

1. 前回議事録確認  
配布資料1により前回会合（3月6日）の議事録を確認した。

## 2. 事務局報告

### (1) 旅費の使用実績について

浅見氏から61年度の旅費使用実績（配布資料2）、及び62年度の委員会予算について説明があった。

### (2) 62年度シグマ委員会構成について

浅見氏から以下の通り報告があった。

核データ専門部会および炉定数専門部会の全体会合がそれぞれ4月22日、4月15日に開かれ、今年度のWG構成、及び作業計画について検討した。今年度の委員総数は133名で前年度より12名増えた（配布資料3）。核構造データグループは今年度から常置グループとなる。

なお、WGリーダーに会合の予定回数を聞き、核データセンターで各WGの旅費使用の予定枠を作ることとした。

### (3) $^{24}\text{Na}$ の半減期について

「Table of Radioactive Isotopes」に14.659 hとなっている（配布資料14）がこの値について問い合わせがきているので、情報を提供して欲しい旨浅見氏より要請があった。\*)

## 3. JENDL-3Tの編集状況

浅見氏からJENDL-3Tの編集状況が、配布資料4を用いて報告された。

## 4. 第26回NEANDC会合について

5月にローマで開かれる第26回NEANDC会合の議題について、配布資料5により、五十嵐氏より紹介があった。

## 5. 「AGM for Nuclear Theory on Fast Neutron Data Evaluation」について

配布資料6により、今年10月に北京で開かれる標記の会合に於て、fast neutron fission cross sectionの理論計算に関する招待講演者を推薦して欲しい旨のTelexが王大海氏（IAEA）から鹿園委員長に届いたので、九大の大沢氏を推薦したことが報告され、了承された。

---

\*) 後日14.659 hは14.959 hのミスプリントであったことがわかった。

## 6. 国際会議準備状況

五十嵐氏より国際会議の準備状況について報告があった。

ほとんどの国外の招待講演者からOKの返事が届いている。しかし、国内の招待講演予定者からの返事が来ていない。第2次案内については、5月中に配布できるよう現在準備を進めている。

## 7. 原子力学会関係事項

(1) プログラム編成委員として馬場議氏（東北大）を推薦したい旨梶山氏より提案され了承された。

(2) 前回の学会特別会合で報告されたJENDL-3以降の核データ活動への提案についてなんらかの対応が必要であると村田氏から指摘があった。

使用経験データベースについては核データセンターで、評価システムについては諮問調整委員会で考えることとした。

(3) 秋の学会特別会合については中川氏が案を考えることになった。

## 8. 学会「崩壊熱基準」委員会幹事会報告

配布資料7により、4月2日に行われた標記会合について浅見氏が報告した。実作業はシグマ委員会のWGで行うことになる。また、まとめのレポートは学会から出すことになり、成果の取扱いについて議論があった。これに関しては、学会のレポートをまとめる前に、原研の成果を公開すれば良いとした。

## 9. 大学関係事項

前回アナウンスした「D-T中性子による放射線損傷素過程のモデル化とシミュレーション」研究会の報告書ができたことが梶山氏より報告された。

## 10. WRENDAの改訂について

WRENDAは4年に1回改訂することになっており、WRENDA87に載せるリクエストの作成について、NEA Data Bankから配布資料8の手紙が届いた。日本からのリクエストについては、現在、各リクエスターに戻して検討してもらっている事が五十嵐氏より報告された。

## 11. その他の報告事項

以下の3件の国際会議について五十嵐氏よりアナウンスがあった。

- (1) International Symposium on Physics and Chemistry of Nuclear Fission, 1988 or 1989 (配布資料9)
- (2) 第7回 International Conference on Radiation Shielding, Bournemouth, UK, 12-16 Sep. 1988 (配布資料10)
- (3) 第17回 International Symposium on Nuclear Physics, Gaussing, GDR, 9-13 Nov. 1987 (配布資料11)

#### 12. 核データ専門部会62年度計画

4月22日(水)に行った核データ専門部会全体会合での議論をもとに62年度の計画について村田氏より報告があった。

62年度の組織は配布資料3に示した。WGメンバーについてはアンケートで決める。各WGの主な作業としては、積分テストの結果への対応、JENDL-3の見直し、新たな評価法の検討などが考えられる。また国際会議への対応は各WGでまとめる方向で検討する。

以上の報告に対して、評価方法を検討するWGがあって良いのではないかと、JENDL-3の評価については、早い時期に反省会をやった方がよいなどの意見が出された。

#### 13. 炉定数専門部会62年度計画

配布資料12をもとに、長谷川氏が報告した。

今年度は主にJENDL-3Tのベンチマークテストを行う。そのため、従来の2つのWGのもとに6つのSWGを組織した。高速炉、軽水炉、核融合炉、遮蔽、ドシメトリーに関するベンチマークテストの予定、タイムスケジュール等を資料で示した。

#### 14. 核データ研究会について

瑞慶覧氏より、1987年核データ研究会についての以下の案が示された。

日 時	11月4, 5, 6日
場 所	原研東海研究所 講堂
テーマ	トピックス、JENDL-3作成と検討、ポスターセッション (トピックスとポスターセッションは公募とする)
言 語	日本語

これに対し、期日は1週間遅らせること、トビックスについては分野を限定して公募した方がよいなどの意見が出された。実行委員については瑞慶覧氏の示した12名の案に対して、核データセンターのメンバーを増やすこと、中沢氏（東大工）を入れることとした。また外国へのアナウンスをすること、実行委員への依頼状を出すことなどを確認した。

#### 15. 本委員会の準備

本委員会を7月3日（金）に開き、議題は次回の運営委員会で決めることとした。

#### 16. 2年報について

配布資料13をもとに、2年報編集委員会で検討した2年報の内容について編集委員会委員長長谷川氏より説明があり了承された。また、英文版も作ってはどうかという意見が出され、編集委員会で検討することとした。

#### 17. その他

今回は6月12日（金）原研東海研で行う。この時国際会議の会場となる水戸プラザホテルを見学することとした。